



もちろん今年も委託しますよ！

せつきーファーム・関谷英樹さん＆
ライフスタイルきらら（一社）喜峰寿）

関谷さんは、県の研修を経て新規就農9年目、瑞穂市内の2.5ヘクタールの圃場で、約500本の富有柿を一人で栽培している。

「地元の名産である『富有柿』でぎふの魅力、農業の魅力を全国にPRしたい」と、洋菓子店・農業高校とのコラボ商品や、地元企業との加工品開発などにも力を注ぐ。

柿の農繁期は、5月の摘蕾作業と、11月上旬から1ヶ月間の収穫作業で、日々の管理作業や、摘蕾作業は一人でもなんとかなるが、収穫作業となるとそうはいかない。

「親戚や友達、知り合い、またその紹介と、本当に苦労して人を集めていました。あてにしているも、急に欠員になってしまい、収穫時期を逃してしまったこともあります」と関谷さんは言う。

障がい者施設に作業を委託することになったきっかけは、ぎふアグリチャレンジ支援センターから届いたアンケート。「それまで障がい者との接点はなく、障がい者施設のこと何もしりませんでした。が、収穫作業を手伝ってもらえ

るならと思う『農福連携に興味がある』と回答した」そうだ。

収穫終盤なら色付きで選別せずに、すべて収穫できるが、ハサミや脚立を使つての作業となる。

受託したのは、就労継続支援B型事業所のライフスタイルきらら。柿の収穫は初めてだが、施設でネギを栽培しており、農家の作業も請け負っていた。ハサミが使える利用者もいた。作業を安全に行うため、脚立は使わず、収穫用コンテナを逆さにして、乗って手の届く範囲までを収穫することにした。

「最初は収穫がスムーズに進むか心配でしたが、初日でその心配はなくなりました。

指示したことは、枝で実をキズ付け



関谷 英樹 さん



実にキズをつけないように、
ヘタの付け根で枝を切る

ないようにすること。枝を長めに切って収穫し、ヘタの付け根で枝を切って、コンテナに上向きで実を並べること。コンテナを積んだ時にキズが付かないように実を詰めすぎないことの3点でしたが、ほとんど正確に作業してくれました。

受託したライフスタイルきららのサービス提供責任者・近藤政久さんは、「柿の収穫は初めてで、収穫時期を色で判断すると聞いて不安でしたが、初年度は色付きが早く、『すべて収穫してください』と言われて安心しました。利用者も、青空の下、広い柿畑で作業が出来て『気持ちがいい』と言っていました」と振り返る。

柿畑にはトイレが無いので、施設まで戻ることができる、車で5分の距離も、受託を決めた理由の一つでもある。

約1ヶ月の委託期間が終了するとすぐに、関谷さんは「来年も委託したい」と伝えたそうだ。

2年目には、「色味が薄い実が残しておく。熟しすぎている実は下に落としておく」の指示が追加されたが、「初日からほぼ完璧でした」と関谷さんは言う。「多少の色味の差は、自分が後で選別

するので問題ないんです。利用者さんも楽しそうに作業してくれたし、前年と同じ利用者さんもいて、ちゃんと手順を覚えていて。2時間でコンテナ15ケース程収穫してくれました。自分も言い忘れていて、枝ごと切ってしまったことがあったんです。多分高い位置の先の方だったので、枝を持って引っ張って切ってしまったんでしょう。枝を切ってしまうと、翌年伸びてこないので切らないように同行している職員さんに伝ええると、すぐに改善されました。」



一本ずつコンテナに乗って手の届く範囲まで収穫する

関谷さんは、必ず柿畑には顔を出すが、収穫作業をしてもらっている間には、選別や箱詰めなどの出荷調整作業を行う。「自分で収穫してから、作業するのは本当に大変なので、助かっています」と言う。

去年は、収穫の

約3割をライフスタイルきららが担い、収穫期の大きな戦力となった。「もちろん今年も委託しますよ。そうじゃないと、安心して収穫期を迎えられませんから」と、関谷さんは力を込めた。



上向きに実を並べる
コンテナを積み上げるため、詰めすぎないようにする

取材メモ

関谷 英樹さん(本巣市)

品 目…柿(富有柿)

作付面積…2.5ヘクタール 500本

ライフスタイルきらら(瑞穂市)

サービス種別…就労継続支援B型

運営法人…一般社団法人喜峰寿